

新学校点描

昇降口前のチューリップが赤や黄色に咲き誇って、登校してくる生徒を迎えてくれています。

《K中学校》

NO.3 R3. 5. 11

担当：校長

本地区は新型コロナウイルス感染状況が落ち着いており、GW中に各競技団体主催の大会が予定どおり開催されました。5月1日（土）に開催されたソフトテニス地区春季大会の女子個人の部においてH・F&H・Hペアが優勝、S・M&S・Aペアが準優勝、男子個人の部においてS・R&O・Jペアが第3位に輝きました。5月3日（月）に開催された卓球の齋藤清杯の男子個人の部において、K・Yさんが第3位に輝きました。6月開催予定の地区総体に弾みをつけたようです。

5月6日（木）は1学年のフィールドワークで田屋の一本桜を見に行きました。前日のさくらんぼテレビの夕方のニュースの中でも金山の田屋の一本桜が特集されていました。行く前に映像を視聴して現地に向かいました。水面に映る「逆さ桜」を見られなかったことに残念がっている感想が多かったです。

5月8日（土）は早朝の6時からPTA整備部の方々に花壇整備作業をしていただきました。マルチシートの撤去は泥との格闘だったと担当の教員から聞きました。加えて小型耕運機を持ってきていただき作業能率のアップをしていただいたこと、重ねてお礼申し上げます。

同日の8日に、真室川総合運動公園を会場に地区駅伝大会が開催されました。選手は、この日まで毎日の早朝練習やGW中の試走などで準備をして臨んでくれました。結果女子は第6位、男子は第3位でした。男子は第1区から6区までトップ争いを演じてくれました。2区のY・Mさんと4区のY・Kさんは区間2位の記録で、1区のK・Tさんは区間3位の記録でした。女子も全区間での懸命な走りに胸を打たれました。5区を走ったK・Sさんは、区間新記録でした。日頃の学校生活では見たことのない、苦しい中での必死な表情を見たとき、改めて中学生の持っている可能性を感じずにはられません。

女子駅伝チーム：1区S・Hさん、2区H・Sさん、3区Y・Aさん、4区M・Yさん、5区K・Sさん。

男子駅伝チーム：1区K・Tさん、2区Y・Mさん、3区U・Rさん、4区Y・Kさん、5区M・Rさん、6区H・Kさん

生徒の背中を追いかける

「まずはダンスを幹部が踊りますから見ていてください」そう言って、組の幹部が正面に並びました。リズムの早い音楽にも関わらず、体育祭で披露する踊りをすでにマスターしています。特に女子の踊りはテレビのアイドルみたいです。

「じゃあ、残りの15分はダンスの練習をしまーす。1年生男子は〇〇さん、女子は〇〇さんのところに集まって！」組頭が指示を出しています。今度は、小グループになって、初めて踊る後輩たちへ指導です。さっきまで踊っていた踊りを言葉で伝えることに悪戦苦闘しています。それでも1、2年生は、しっかり先輩の背中を追いかけます。



ふと見ると、2年担任のM先生もグループに混ざって踊っています。

「先生なんかおかしい」と笑いが起きました。組幹部の生徒の背中を、後輩も教員も追いかけます。

「こんにちは、今日ご案内させていただくK・Rです。よろしくお願いします。」

校長室前で本校を訪問してくださったお客様にそう語って、学校案内がはじまります。昨年度末から、学校にいらしたお客様に生徒の授業の様子や校舎を一通り案内する活動を生徒に任せています。“スクール・ツアー”と呼んでいます。これまでは、大人である教員が行っていました。でも、学校のことを一番知っているのは生徒たちですし、お客様も直接生徒から話を



聞きたいだろうと考えてこんな取組みをしています。案内役の生徒は、昨年度スチューデント・サポーター講座を受講した9名の生徒にお願いしています。スチューデント・サポーター講座については、昨年度のこのたよりでも紹介しましたが、簡単に言うと『生徒版スクールカウンセラー養成講座』というものです。M・Rさん、A・Mさん、K・Rさんと、これまでスクール・ツアーの案内役を引き受けてくれました。

わたしからは一つだけお願いをしています。「お客様に質問されたら、正直に自分の考えを答えてね。」それだけです。「この先生はどんな先生？」って聞かれたら、遠慮しなくて正直でいいんだよ。そう言っています。何か訓練したり、マニュアルがあってその通りにするのは、生徒によるスクール・ツアーの意味は薄れます。初めて会う大人の人に、アドリブで対応する力、中学生には、そんな力が十分に備わっている、そういう機会を作っていなかっただけなのだと考えているのです。

「では、わたしの後についてきてください」そう言って、スクール・ツアーが始まりました。中学生の背中を、さまざまな立場でいらした大人のお客様が追いかけます。

Q：「各教室に1台の電子黒板がありますね。やっぱり普通の黒板よりも、電子黒板で説明を受けた方がいいですか？」と、あるお客様が、そのときの案内役であるA・Mさんに尋ねています。

A：「先生方一人ひとりの文字は個性が出ますので、わたしは電子黒板の方が理解しやすいです。」Aさんがそう返していました。

「なんだか涙が出てきました。」

校長室に戻ると、ツアーを終えた一人のお客様がこうつぶやきました。

----- きりとりせん -----

ご意見・ご感想をお願いします。